

解説

2

ベンディングマシンの変遷と最新動向

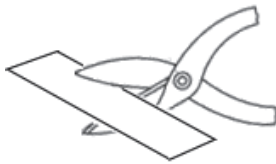
小渡邦昭*

塑性加工教育訓練研究所 代表

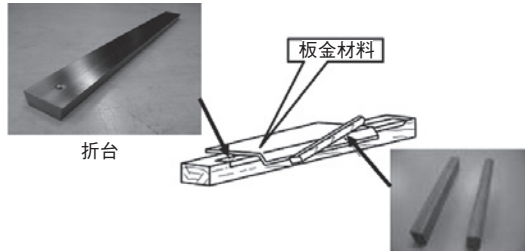
昭和レトロが漂うような雰囲気風景には、路地の片隅でトタン（板厚が薄い亜鉛めっき鋼板）を加工して煙突や屋根を手作業で作り上げる建築板金職人が思い出される（図1）。時代の流れとして、多くの簡易な道具による手作業は工場内で標準化された製品を作り出すことに変わり、利用される材料もプラスチックなどへ変化したこと

より、身近に板金加工に触れることが少なくなっている。

我々の生活環境を見わたすならば、自動販売機、白物家電、パソコンなどの機械を収める箱形の容器（筐体）を目にしない日はない。しかしながら多くの人々は、それらが作られるプロセスを見ることは少ないのではないだろうか。唯一、多くの



手加工：はさみでせん断



手加工：曲げ箇所を決める台に置いて材料を手加工で曲げる（折台と拍子木）



足で踏むことで薄板をせん断する足踏みシャー（盛光 HP より）



テコの原理を使い手動で曲げ加工が可能な万能折り曲げ機（野口プレス HP より）

図1 手動機械も板金加工の原理は同じ

*こわたり くにあき

〒286-0036 千葉県成田市加良部 1-8-608 / e-mail : kowatari@xa2.so-net.ne.jp